分解者のなかま：小動物・菌類・細菌類

落ち葉や死がいは、どんな生物によって無機物にもどっていくのだろう

① 林の地面の断面（上から下へ分解が進む）

空気中へ

落ち葉・かれ枝・動物の死がいやふん（有機物）



1 小動物（土壌動物）

落ち葉や死がいを食べて、細かくする。
ふんも、さらに分解される。

大きさ：目で見える（ルーペで見るものも）



ミミズ　ダンゴムシ　トビムシ

2 菌類（カビ・キノコのなかま）

菌糸をのばして、落ち葉などの
有機物を分解する。

大きさ：キノコは目で見える。菌糸は細い



キノコ　菌糸（白い糸）

3 細菌類

さらに細かく分解して、
無機物にする。

大きさ：顕微鏡でないと見えない



顕微鏡で
拡大した模式

● 無機物：二酸化炭素・水・養分（窒素などをふくむ物質）

水や養分は、植物の根が吸収する。
二酸化炭素は空気中へ出て、植物が光合成に使う。



植物の根

② 菌類と細菌類のちがい

菌類（カビ・キノコ）



体は、菌糸という
細い糸でできている。
キノコは菌糸が
集まったもの。
胞子でふえるものが多い。

細菌類



1つの細胞でできた、
とても小さな生物。
分裂してふえる。

（形は球形・棒形などいろいろ）

③ 分解者のはたらき

1〜3の生物は、死がいやふんなどの
有機物を取り入れ、呼吸によって
無機物にまで分解する。
有機物を取り入れる点で、
消費者でもある。

※ 模式図。分解の大まかな順を段に分けたもので、実際には同じ場所で同時に進む。生物の大きさは実際と違う。